

天 報 星

人生にたとえると、母親の胎内に宿る胎児の星です(前世と今生の中間にあって生命を形成しているとき)

天報星世界では、人間の意識や自覚はまったく存在していません。(ですから、この世において、どのような宿命を与えられるのかもわかりません。それこそ自分が男の子に生まれるのか、女の子に生まれるのかさへも分らないのです。)

そのため、この星には「変化」「変転」「無の形成」などの意味があります。

天報星世界は、変転変化が示す通り心の変化が実に早いのですが、その原因は無の形式にあるのです。それだけにどのような精神状態でも受け入れることが出来るのです。

この「無の世界」は、空間のみの世界です。仕事においても、勉強においても空間現象は、無尽蔵につめ込むことが出来るのです。(多忙な毎日の中で、たとえば茶道を習い、華道を学び、加えて語学の学習も、スポーツも行うなど、超人的なスケジュールを消化し、みごとに記憶することが可能な世界なのです。)

■**初年運**(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

子供の頃に親の運勢が変化をする……という暗示。(まず、親の運勢が変化をしたはず……と正しいでしょう。)

しかし、この人の薄幸を意味するものではありません。

この人の、幼少期は一つの事に満足できない性質で、趣味においても、人間関係においても発揮されます。

広く浅くという生き方になり、30歳前には、適職が定まらず、場合によっては、定職もなく、親きょうだいに心配をかける初年運になるでしょう。

額に汗する青春時代をおくれば、その苦労が、中年、晩年に必ず実を結ぶことでしょう。

この形になった人は、一つのことを辛抱強く続けることを肝に銘じて下さい。

■**中年運**(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

中元に天報星を持っている人は、安定を欠きやすい中年運という暗示で、人生の方向づけが、中年になっても定まらず変転変化を繰り返すようになります。(もともとこの星は、「変転変化」の激しい星だけに、30歳以前には本職が定まらないという暗示がありますが、多芸多才な星だけに思いがけずお金儲けが出来ることもあります。しかし、この星のことを「三歳昇降転々」と言って、3年という短い間に、見事に幸運をつかみ、見事に不運の底に落ちるとされています。ですから、幸運を掴んだ人は、そのときに本腰を入れて取り組まないと、運勢は再び急転して悪化の一途をたどることになりかねません。まさに「お天気屋さん」の星ですが、この変転変化の現象を激しくする原因は、「無の形式」にあり、どんな精神状態をも受け入れることが出来るからです。)

■**晩年運**(人体星図の右足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「本元」の場所と言っています。)

本元に天報星を持っている人の晩年運は、住居の変化を含めて、波瀾の多い晩年の人生という暗示があります。

波瀾の多い人生といっても、不運な人生とはかぎりません。老いての引退はむずかしく、もうひと頑張りが必要な晩年という意味が、多分にあるということです。また、それだけの気力と健康に恵まれます。

この星の持つ多芸多才振りは色あせる事なく、弾力性のある老年期の生活です。俳優の山岡久乃さん、森光子さん、金子信雄さん。評論家の竹村健一さんが本元に天報星を持っていました。

●人体星図に天報星が**二つ以上出ている人**は、一生を通じて、変転変化を繰り返し、死ぬまで安住の地が見つからぬという最凶運。

また、この人は一度の結婚ではおさまらないという暗示。しかし、天報星が二つあって、天将星が出ていると、晩年は最大の幸福をつかむ強運の持ち主です。(これを算命術では「動乱の英雄」と言っています。)

●人体星図右足(本元)の位置に天報星が出ている人で、「初元(肩)」か「中元(左足)」に、同じ天報星が出ていないか調べてみてください。そういう形で天報星が二つ以上持っている人は「生涯安住の地なし」という暗示があります。つまり、一生を通じて家庭生活は「波瀾万丈」の人生……ということです。